

素話・紙芝居におけるイメージと表現 — お話「そらのいろはなぜあおい」からの学生の描画を通して —

長 根 利紀代

1. はじめに

近年、子どもが絵本や紙芝居に触れる機会は増加し、子育てには欠かせないものとなっている。特に、絵本はその豊富な種類と豊かな内容、保育者にとっての扱いの手軽さから頻度も増加している。紙芝居は、絵本程とはいかないまでも、保育施設では頻繁に用いられ、家庭においても子どもに与えたり身近な人間が読み聞かせる機会ももたれている。従って、絵本・紙芝居は子どもにとっても家庭で慣れ親しんできたことで親近感を持ち、園生活でもスムーズに受け入れられる教材である。しかし、絵本や紙芝居が豊富に子育てに用いられるようになった反面、家族や保育者が「物語を語る」ことの減少傾向が見受けられる。素話は、かつてより子どもが胸躍らせながら家族や身近な大人の言葉に耳を傾けて聞き入り、現在もまた、親子をはじめとする人間関係にとって重要な教材であると考えられる。2000年に実施した先行研究(注1)では、実習における「素話」の活用機会の減少が見られ、さらに、授業において実演し、素話のみのクラスと紙芝居のみのクラスに分け学生の抱いたイメージで描画した作成結果からそれぞれの特徴について調査した。そこでは、両者の差は所要時間に見られ、「素話グループ」には、個々の学生が描き上がるまでの所要時間に大きなばらつきが見られ、「紙芝居グループ」では時間に大差なく仕上げる結果となった。また、描画内容においても「素話グループ」は、「紙芝居グループ」と対照的と言えるほど内容が豊かで丁寧。また、個々の学生のイメージの広がりあり、全体的にどの学生からも紙面一杯に様々な表現が認められた。こうした点からも、特に素話は、豊かな表現を引き出す教育効果の高い有効な教材であることが考察されている。そこで、その後は、さらに授業での素話に対する指導を取り入れる努力をしてきた。そこで、本研究では時代の変化に伴う学生

の経験などを考慮し、再度、「素話 空の色はなぜ青い」を取り上げ、さらに研究を進め、描画やアンケートなどを実施して、学生の抱いた「イメージと表現」から「紙芝居」と「素話」の教材としての現状とその効果を確認すると共に更なる今後への授業の方向性を考察したい。

2. 研究の方法と内容

保育科学生の実習体験から(1)紙芝居と素話について、(2)アンケート①現場での素話・紙芝居・絵本の実践状況調査、(3)アンケート②学生の生育歴における絵本・紙芝居・素話と出会った経験の調査、(4)授業内で1年次学生の2クラス(A Bクラスが合同・C Dクラスが合同)を対象に物語「そらのいろはなぜあおい」を教材として、一方では先に素話を実演した後に紙芝居を、もう一方のクラスでは反対に紙芝居を先に実演した後で素話を聴き、紙芝居、素話をそれぞれ見聞きした直後に、課題「物語からイメージした町の絵を描く」として、その鉛筆画の特徴と感想文を比較し、紙芝居・素話の教育効果と教材の活用について考察する。

研究対象：保育科2007年度

1年生196名《アンケート①・(4)》

2年生168名《アンケート①・②》

調査期間：2007年6月～9月

教 材：素話・紙芝居「そらのいろはなぜあおい」

(作—今西裕行 脚色—佐竹弘子 画—小谷野孝二 解説—石川光男)

描画用紙：B 5 白のコピー用紙

実習期間：2年生

1年次 幼稚園 or 保育園 7月2日間・11月2週間

2年次 幼稚園 5月2週間・施設 8月1週間
1年生 1年次 幼稚園 or 保育園
7月2日間

物語のあらすじ：「そらのいろはなぜあおい」
あるところに小さな町が在り、町の外には広い野原が広がっていて、その向こうにはいくつもの丘が続いていた。野原には様々な花が咲き、丘にはおいしい果物の木が沢山あった。神様がまだ町の人々と一緒に暮らしていたが人々はそれを知らなかった。町は平和だったが金貨を持った旅人が町に果物を買いに来るようになってから、金貨が欲しくて町に争いが耐えなくなり、失望した神様は町を離れ、面倒を十分見てもらえなくなって寂びしがっていた子どもたちは、神様について空の国についていくことにした。そこで色の無かった寂しい空を子どもたちが選んだ青色に塗ったところ神様はとても喜ばれた。そして、神さまと子どもたちは空に昇って行ってしまい、大人たちは非常に後悔し悲しんだ。



紙芝居の町の絵

3. 結果と考察

(1) 紙芝居 (kamishibai, picture-story show) と素話 (story telling) について

紙芝居は、絵巻に源流を求められる日本独自の文化財。紙に描かれた動きのある絵を示しながら、セリフ中心に芝居を演じる素朴な教材であるが、演者は作品の特徴をいかし効果的に演じるために、声・間・抜き方など演出効果を工夫する必要がある。子どもにとっては視聴覚メディアとして理解しやすく、仲間と一緒に見ることで共感する楽しさや演者との交流も味わえ、教材としての有効性は高い。しかし、手軽に扱うことが出来るため内容把握が不十分になりやすく、保育の時間

つなぎに使用するなど簡単に扱われる傾向がある点に留意したい。現在は、紙芝居の活用がメディアの多様化により減少傾向にある。

素話は、視聴覚教材などを一切用いず、人の声のみで物語を覚えて子どもたちにお話（童話）そのものを語り聞かせることをいい、ストーリー・テリングと同義である。現在では、「児童文学」が子どもの文学の総称として定着し、童話は1ジャンルとなっている。子どもにとってお話 (talk) は、日々の生活の中で母親や周りの大人たちにより、人と人との交わりの中で一番はじめに意図的な刺激として与えられる。お話を直接語り聞くとすることは、話し手の人柄に直接触れることで語り手と聞き手との心が通い合い、言葉の美しさやリズム、豊富な言葉や話し方などに触れることで、表現力を養う大きな力となることも期待できる。また、物語から自由にイメージを膨らませることが出来、子どもたちそれぞれが頭のなかに目に見えない世界を様々に想像し合いながら友達と感動をともにして楽しめることなど、特に幼児期に大切なものを育てるための教育的意義がある。話材には、昔話、伝説、神話などの説話、童話、実話などがある。いずれも聴いて分かりやすい筋であることが必要であるが、聞き手の経験が土台になってイメージが作られることや同じ話しても語り手の個性や意図により印象が大きく左右されることの認識や語り手の実践力が問われることを考慮する必要がある。

(2) 実習における素話・紙芝居・絵本の実践状況

実習における教材活用における2000年度の調査では、1・2年生共に絵本を活用した経験がたの教材に比較し最も多い。一年次（調査当日157名）では絵本80.3%、紙芝居66.9%、素話7.6%となり、二年次（調査当日146名）では絵本100%で、紙芝居96.6%、素話21.1%となる（表1）。こうした点は、2007年度の2年生にも見られる。また、実習期間に限られるが、学生の指導教官である担任の実演も参考にする。絵本では学生、担任とも絵本は100%で、回数も多いものでは40～50回以上も目立つ。紙芝居では学生の実演は僅か1～2回というものも見られるものの95.2%が経験を持ち、担任の実演も95.2%の学生が観察している。学生の

実習期間は限られたものではあるが、こうして見ると、保育現場における紙芝居は絵本よりは活用機会が少ない傾向が見られる。しかし、素話活用の機会は他の教材に比較して非常に少なくなっているのが分かる。年度で比較すると、2年生では2000年度が21.2%、2007年度では13.7%で2007年度は7.5%減少しており実演回数も1～2回が多くなっている。また、担任でも29.2%に留まり年度による減少傾向はさらに進んでいるのが分かる(表2)。

<表1>2000年度1年生・2年生の実践経験1年生157名・2年生146名(2000.11現在)

	素話	紙芝居	絵本
一年生	12名(7.6%)	105名(66.9%)	126名(80.3%)
二年生	31名(21.2%)	141名(96.6%)	146名(100%)

<表2>2007年度2年生の実践経験本人及び担任166名(2007.9現在)

	素話	紙芝居	絵本
本人	23名(13.7%)	160名(95.2%)	168名(100%)
担任	49名(29.2%)	160名(95.2%)	168名(100%)

(3) アンケート②学生生育歴における絵本・紙芝居・素話と出会った経験の調査について

実習でも確認できたが、ここでみると学生自身の経験も実習時の調査と同様の状況がみられ、やはり1・2年生とも本人が育つ段階で素話に触れた機会が少なかったのが分かる。頻度には開きが

あるものの、経験としては1年生が絵本98.5%、紙芝居では94.8%の経験を持ち、2年生では、絵本95.3%、紙芝居では87.5%の経験を持っている。さらに、「非常に多い」と「多い」でみると、1年生では55.1%が絵本を経験しているものの、紙芝居は25.9%になる。また、2年生では、絵本69.1%、紙芝居25.6%で1・2年生とも紙芝居は大幅に少ない。しかし、素話においては、1年生の経験は41.3%あるものの「非常に多い」や「多い」では僅か3%、2年生は44.7%の内3.6%に留まっている。ここから見ても、自らが経験していないことを保育の中に取り入れることが困難であることは十分考えられる(表3)。また、学生が主に誰から話を聞かせてもらったのか調査すると、1年生の絵本では母親からの63.35%が最も多く次いで28.1%の保育者になるが、「その他」には兄や伯母、覚えていないなどが含まれている。紙芝居では33.2%と保育者が19.9%母親を上回るが「その他」には小学校の先生が含まれている。2年生では、絵本ではやはり母親となり98.5%、紙芝居では断然保育者が94.8%と多く%母親を引き離している。しかし、素話においては、1年生が保育者によって27.6%、2年生は20.8%となり、いずれも保育者や家族から伝承される機会が少ないことが分かる。しかし、同居の祖父母は予想できるものの、1年生で母親が6.6%であるのに比べ、父親の3.6%で「非常に多い」と記述した学生には父親が含まれており、2年生では母親8.9%で父親は4.2%が出現したことは興味深い。「その他」の中には、サークル活動のボランティアやテレビ番組、「覚えていない」や回答なしのものも含まれている(表4)。

<表3>2007年度学生本人の経験1「聞かせてもらった」%1年生196名(2007.9現在)

	1年生(196名)							2年生(168名)						
	非常に多い	多い	時々	少ない	全然無い	その他	無回答	非常に多い	多い	時々	少ない	全然無い	その他	無回答
素話	1.5	1.5	10.2	28.1	53.1	5.6	0	1.2	2.4	15.5	25.6	47.6	7.7	0
紙芝居	3.6	21.9	46.4	22.9	2.6	2.0	0.5	3.6	22.0	38.7	23.2	6.0	6.5	0
絵本	16.8	38.3	28.1	15.3	0	1.0	0.5	26.8	42.3	18.5	7.7	2.4	2.4	0

素話・紙芝居におけるイメージと表現

<表4>2007年度学生本人の経験2「誰に聞かせてもらったか」% (2007.9現在) 196名

	1年生(196名)							2年生(168名)						
	保育者	母	父	祖母	祖父	その他	無回答	保育者	母	父	祖母	祖父	その他	無回答
素話	27.6	6.6	3.6	2.0	1.5	2.6	56.1	20.8	8.9	4.2	5.4	1.2	0.6	58.9
紙芝居	33.2	13.3	0	0.5	0	2.6	50.5	73.2	11.9	1.8	1.2	0	10.1	1.8
絵本	28.1	63.3	3.1	2.0	0	2.6	1.0	16.7	72.0	4.8	4.2	0	1.8	0.6

(4) 1年生への課題「物語からイメージする町の絵を描く」の鉛筆画の特徴と感想文から

以上のような学生の育った環境を視野に入れた上で、筆者によって実演された紙芝居と素話の両者からによる描画と感想の比較により考察を試みる。A Bの合同クラスは、先に紙芝居を聞き直後に描画した。その後素話を聞き、抱いたイメージで新たに描画する。同様な手順で、C Dの合同クラスは先に素話、その後に紙芝居を実演し、それぞれの実演直後のイメージを元に絵を描く。

1) それぞれの描画と感想文の特徴

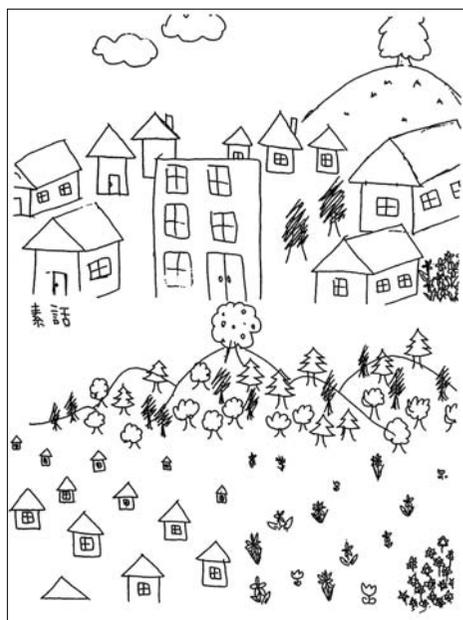
2000年度の研究では、今回と違い1クラスで紙

芝居のみを、他のクラスで素話のみを実演し、その特徴を考察した。その結果は、先にも述べたように特に時間的な差に加え、描画内容においても「素話グループ」は、「紙芝居グループ」と対照的と言えるほど内容が豊かで丁寧な表現と個々の学生のイメージの広がりがあった。また、全体的にどの学生からも紙面一杯に様々な自由で独自の世界が表現出来た(表5)。2007年度では、下記の「a・b・c」のような特徴が考察された。

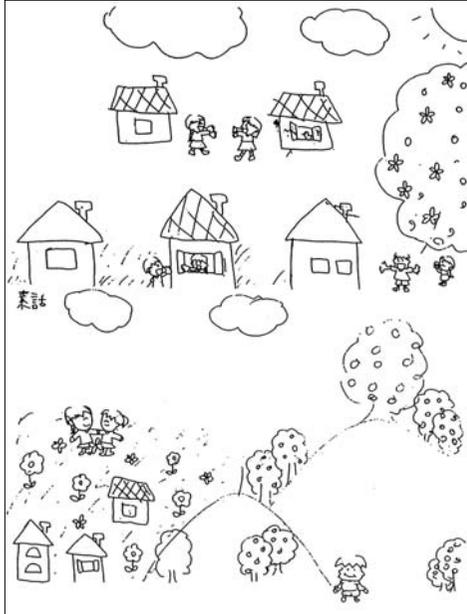
a 学生の描画と感想の比較(描画は上部が紙芝居、下部が素話後のものである)

<表5>2000年度 学生描画の特徴
(調査当日 素話69名、紙芝居82名)

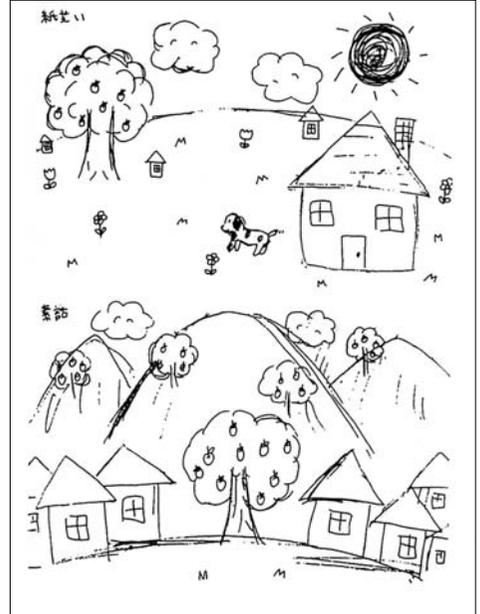
	素話グループ	紙芝居グループ
所要時間	約15分以上を要し個人差が大きく30分以上かったものもある	約10分程ではほぼ全員が描き終わる
描画内容	<ul style="list-style-type: none"> ・描写は細かいものや大きなもの、構図等が様々 ・紙面一杯に描かれている ・描かれた量が多く用紙に余白が少ない ・人や生きものなど描画対象物が豊富 ・家の窓やドア、煙突の煙など細かい描写がある ・丁寧な描き方が目立つ線に力が入っている ・用紙は69名中85.5%が横、14.5%が縦に使っている ・意欲的な取り組みが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵が全体的に小さい ・描かれた量が少なく用紙に余白が目立つ ・窓の無い家、人や生きものが描かれていないなど ・絵画対象物が乏しい ・雑な描き方が目立つ ・線に力がない ・類似した構図が目立つ ・用紙は82名中97.6%が横に使っている(紙芝居は場面がすべて横向き) ・意欲が感じられないものが多い



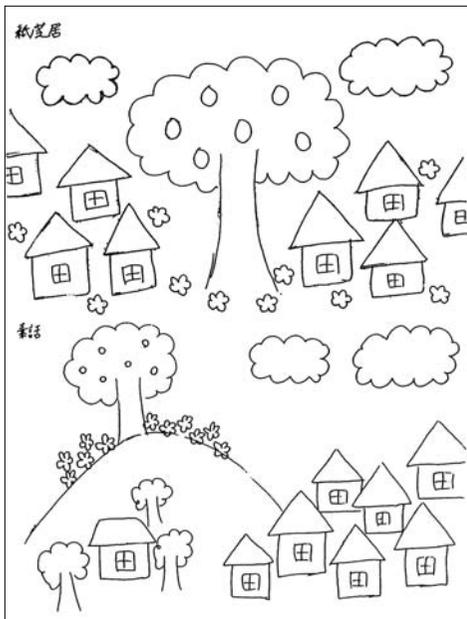
①素話は自分で話の世界を作り想像の世界が広がったが紙芝居は絵と話が同時に入ってくるので想像できなかった。紙芝居は絵で印象に残ったところを描き、素話は想像して自分が一番きれいだと思ったところを描いた。(AB)



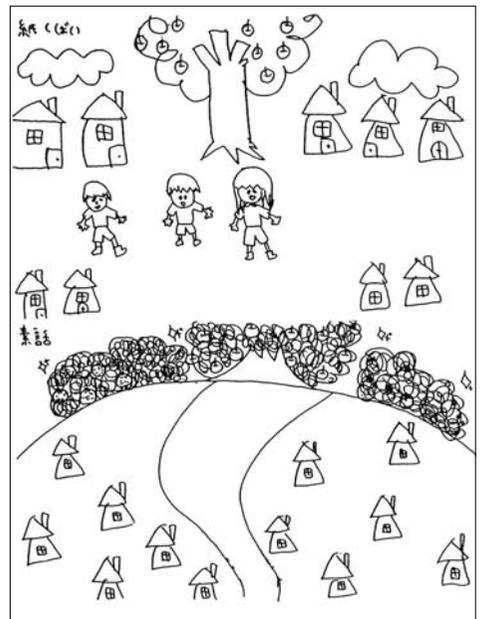
②絵があるのと無いのでは話のイメージがすごく違った。紙芝居は絵があり、その絵から話の内容やイメージを広げていくが、素話だと自分だけのイメージを作り出せて紙芝居よりも印象に残ると感じた。(AB)



③同じ話なのに自分の中に湧くイメージが全然違っていた。素話は自分の中で次々とそのシーンが浮かんで来てこんなこともできるんだと驚いた。(AB)

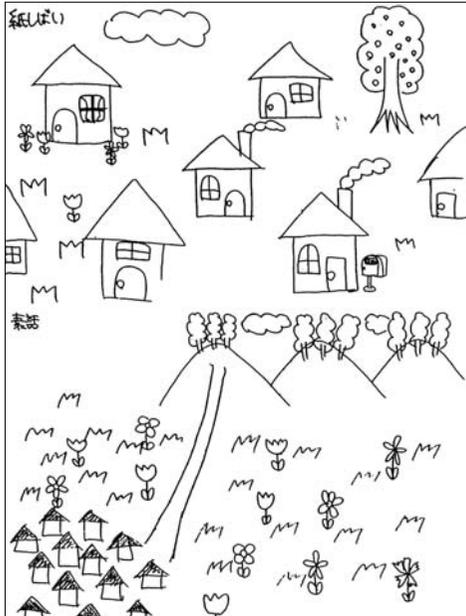


④紙芝居は絵を見ながら聞いていたが、素話は絵が無いので自分なりにイメージすることが出来、紙芝居と違ってイメージする場面を大きく思い浮かべることができるのでよかった。(AB)

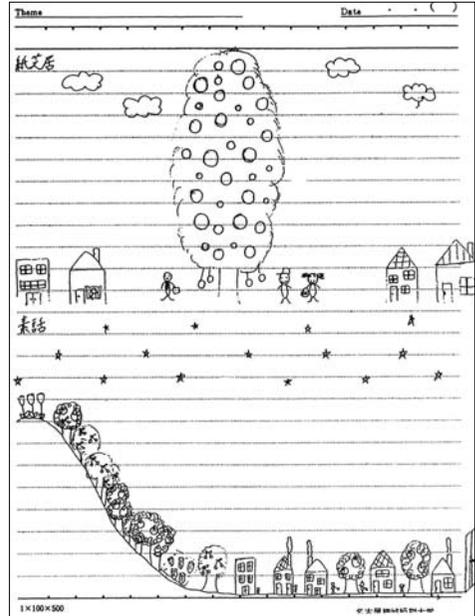


⑤紙芝居は絵を読むという感じだった。子どもたちはきつと絵を見て想像すると思う。しかし、素話では話を聞きながら話し手の表情、言葉を読んで想像するのだと思った。絵が無い分一人一人想像したものが違い想像力も広がると思った。(AB)

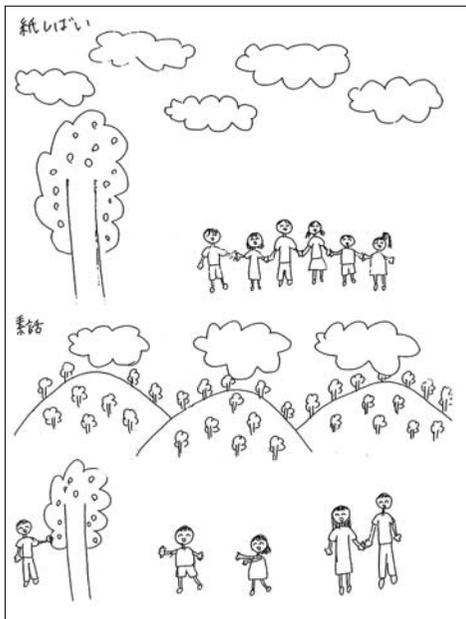
素話・紙芝居におけるイメージと表現



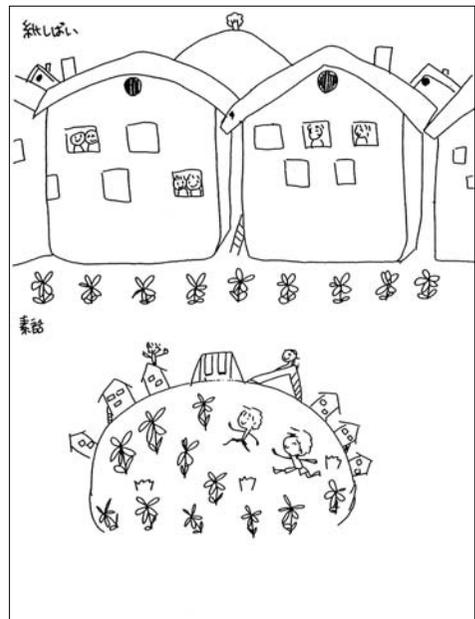
⑥紙芝居と素話はだいぶ印象が変わった。紙芝居は絵を見ながらお話を聞くのでアニメみたいに場面が次々変わるが、素話は自分で想像しながら聞くので自分で場面を作らなければならない。子どもに素話を聞かせるのは想像力が豊かになりとてもよいと思った。(AB)



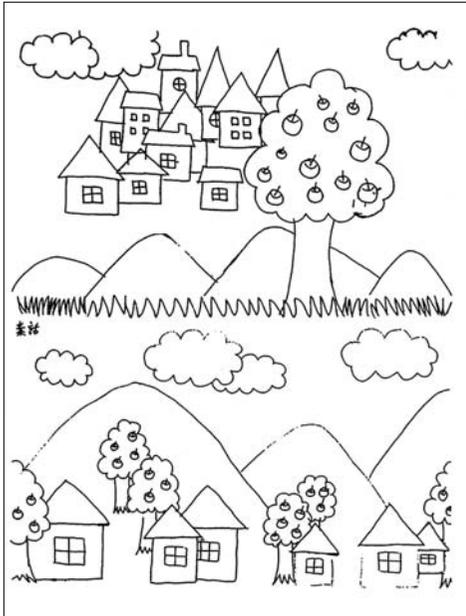
⑦素話は話を聞きながら自分だけの想像で楽しむことができ、自分だけの世界を実際に描けてとても面白い。子どもの想像性を高めることができる。紙芝居は言葉と絵を一致させそこから自分の世界を広げる。素話とは同じ話しても原点が違う。(CD)



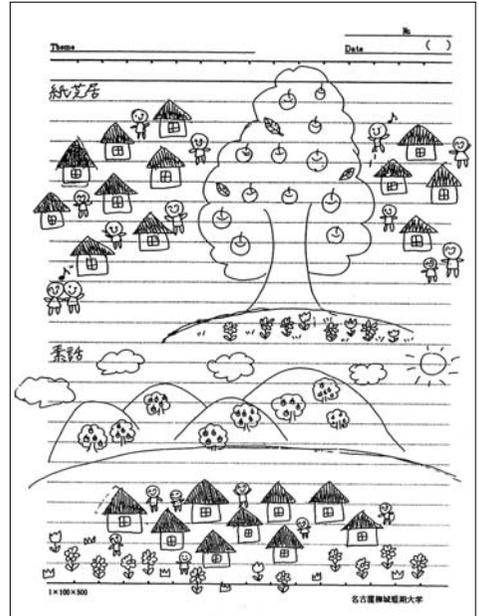
⑧素話の方が想像しながら聞くので頭の中にイメージが残りやすい。また話し手が体で表現して想像しやすかった。紙芝居だと絵を見てよりイメージがし易く絵の中の登場人物が動き話をして集中できたが、見て聞いているだけなので話が頭の中で残りにくい。(AB)



⑨紙芝居は絵があるが素話は何も無く自分なりのイメージを膨らませ、紙芝居よりもいっそう話し手の言葉に聞き入ることが出来た。町のイメージも印象に残ったシーンも同じなのに紙芝居と素話では全然違うことに驚いた。ねらいに応じて使い分ける必要があると思う。(CD)



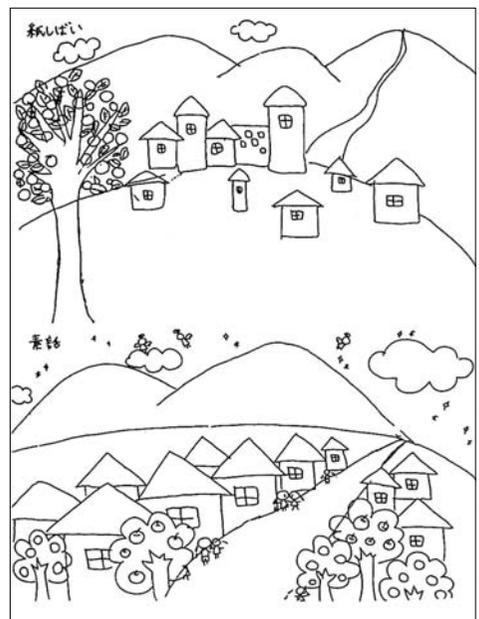
⑩素話と紙芝居を続けて聞き絵があるのと無いのではだいぶ違いがあると思っていたが、素話の方でもそれを補うような話し方や表現の仕方ですべて1つ1つのシーンがとても分かりやすくイメージ出来た。何も無い状態で話す難しさが分かった。(CD)



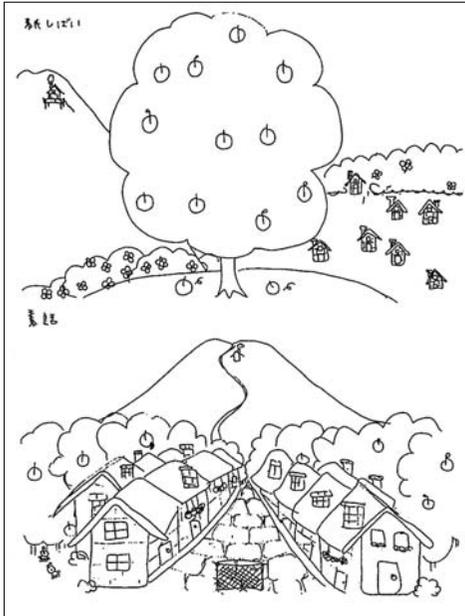
⑪紙芝居と素話では自分が入ってくる物語のイメージが全然違った。紙芝居は絵を見て話の内容を理解しやすいが素話の方が自分のイメージで物語の絵をつくれるので聞き終わって感動がとても大きかった。でも紙芝居にも素話もそれぞれのよさがあると感じた。(CD)



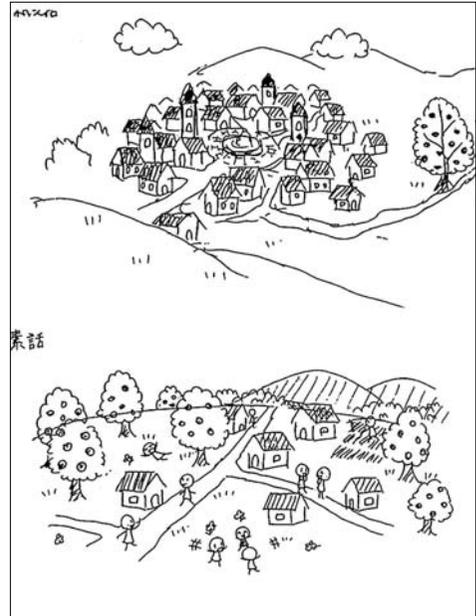
⑫素話は木や人や町も全て自分のイメージで絵もスラスラ描けたが紙芝居で絵を実際に見て描くとどんな絵だったか思い出そうとした。素話は子どもたち一人一人のもっているイメージを引き出したり膨らませたり出来るし、紙芝居は子どもたちのイメージをつかってあげるものではないかと思った。(CD)



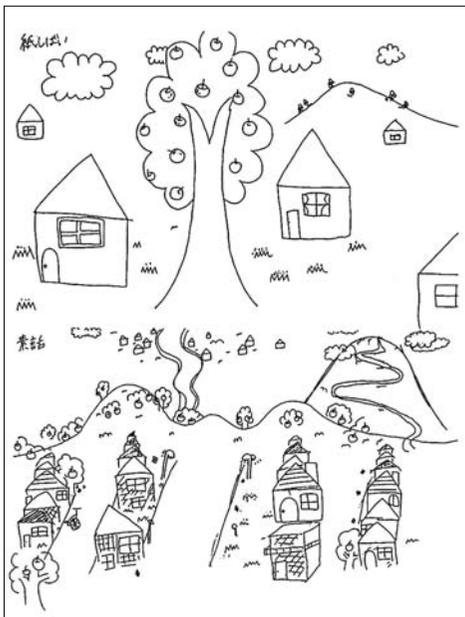
⑬素話は自分で場面を色々考え想像力豊かに話の場面をつくれる楽しさがある。紙芝居では絵があるので話の内容がすぐ理解でき次のページをめくりにワクワクしながら見て楽しめる。紙芝居も素話も話し方で話の内容をリアルにしていくことが大切だと思った。(CD)



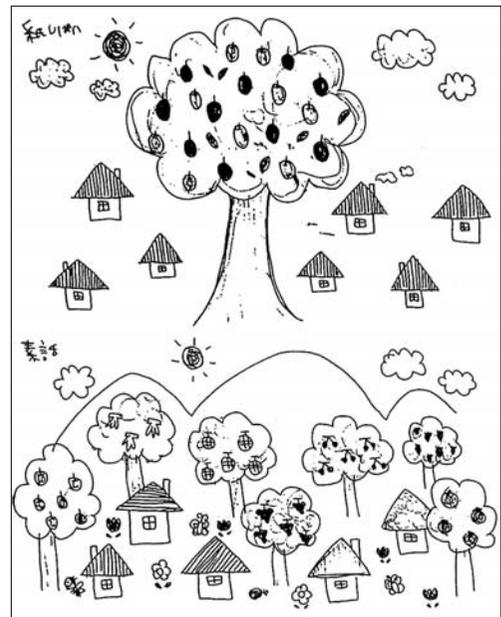
⑭素話の方が最初だからかもしれないが頭の中で映像として話の内容がイメージできた。紙芝居は場面を想像するのではなく、見ている絵に言葉を当てはめていく感覚だった。想像力を大切にすれば素話だが紙芝居は絵をみることで人の表情や雰囲気表現する手助けになる。(CD)



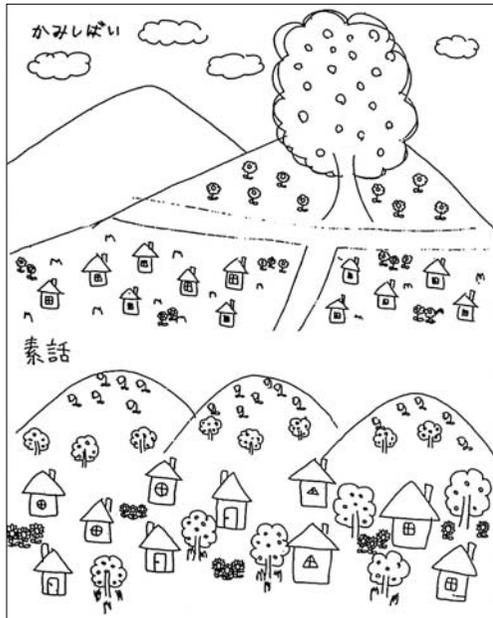
⑮素話は情報が言葉だけで場面を自由に想像でき、それが素話の魅力だと思った。印象的なシーンは紙芝居は絵でインパクトを感じ、素話は想像した中で印象に残った場面になった。こうした印象の違いは子どもにも与えると思うので伝える手段をきちんと考える必要がある。(CD)



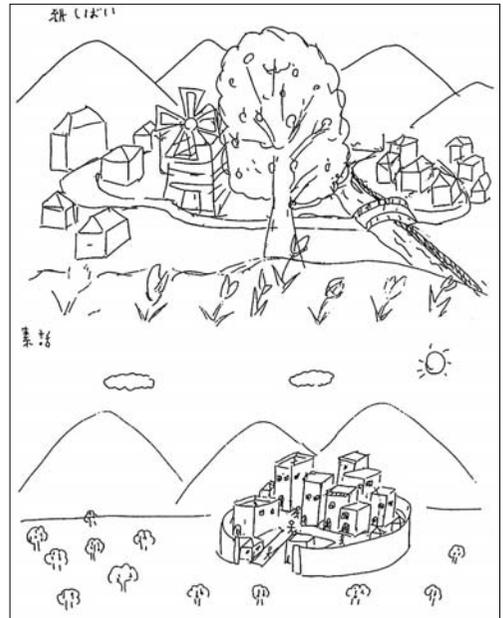
⑯素話では頭の中でイメージや絵が成り立ち、紙芝居とは違う場面もあって楽しめた。語り手の言葉と身振り・手ぶりで物語が展開されて言葉の力はすごいと感じた。言葉で会話でき、伝えられるのは人間だけだと考えることから「素話」を大事にしたい。(CD)



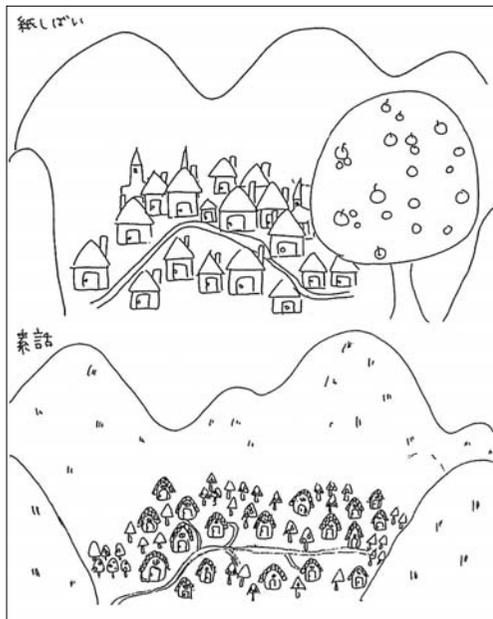
⑰両方を聞いて紙芝居は絵を見て楽しめたが、素話は頭の中でイメージが代わる代わる広がり、聞いていてとても楽しかった。素話は紙芝居と同じ内容なのに自分たちそれぞれの捉え方でイメージすることができ、一人一人の感性を豊かにするにはとてもよいものだった。(CD)



⑱素話は一人一人想像することが違って面白かった。似たところもあるが全く一緒になることは無く自分の描きたいように描けてよと思った。紙芝居は絵と一緒に話を聴くから頭の中に話が入り易く子どもには分かり易い。話を聞いて絵を描くなら素話の方がいいと思う。(CD)



⑲素話を聞いた後で紙芝居を見たら絵の中に引き込まれるような気がした。話は同じなのに絵があるだけでこんなにもイメージできるものかと紙芝居に驚いたが読み手の上手さで自然と引き込まれる。紙芝居は上手い読み手と絵があってはじめて紙芝居となるのだと思った。(CD)



⑳紙芝居は絵本みたいに絵を見ながら話を聞かすが、素話は話を聞くだけで場面を想像する。絵を比べたりすると皆違う絵を描いていたので、それぞれ自分の思った通りの話の世界が作られることが分かった。(CD)

b 描画の特徴

先に紙芝居を聴いたABクラス(以後AB)は、紙芝居の描画においては「木は1本のみ」描いた学生が51.0%となり、素話の後でも29.6%の学生の描画に「木は1本のみ」描かれている。しかし、素話を先に聴いたCDクラス(以後CD)は、素話後の描写には「1本のみ」は7.8%現われている

<表 6> 描画の特徴 (%)

	ABクラス (先に紙芝居)		CDクラス (後で紙芝居)	
	紙芝居	素話し	紙芝居	素話し
木は1本の のみ	50 (51.0%)	29 (29.6%)	85 (82.5%)	8 (7.8%)
複数に1本 が目立つ	8 (8.1%)	19 (19.4%)	9 (8.7%)	6 (5.8%)
複数の木	12 (12.2%)	36 (36.7%)	4 (3.9%)	85 (82.5%)
木は無し	28 (28.6%)	14 (14.3%)	5 (4.9%)	4 (3.9%)
合計	98	98	103	103

ものの、A Bと比較すると21.8%少ない。そして、C Dでは、素話のあとの描画には話の内容なりに多くの木々や様々な町の様子が自由に描かれている。しかし、紙芝居後では「木は1本のみ」描いた学生は、82.5%に上る。これはA Bの紙芝居の後と比較すると31.5%多いことから、C Dが紙芝居を聞いた後では紙芝居のイメージに大きく影響されていると分かる。また、特に、C Dの紙芝居後に多く現われたのは、感想文に「素話でぼんやりしていたイメージが紙芝居によって鮮明になった」や「紙芝居の絵画が答え合せのようになった」と絵の印象が強かったことが記述されている。

(表6)

c 感想文より

描画の特徴に見られた点を踏まえてさらに感想文を調査し考察を試みる。

①紙芝居の感想から

まず、紙芝居を先にみたA Bでは、描画してみて「絵が描きやすい」と5.8%が述べ、主な意見の内容は「絵が目には焼きついて記憶に残りやすく、スラスラ細かいところも描けた」などとしている。また、話の内容が「分かりやすい」や「絵を見ながら楽しめる」などが52.2%あり、「絵があることで作者の意図が伝わりやすい、絵を元にイメージが広がっていく」や「見聞きすることで内容が把握できた、町の様子が分かる、絵の色や形が浮かぶ、絵がとても印象的で鮮やかな色の絵などにとっても引かれた、次のページへの期待を持った、絵の中に入り込んでお話を聴いた」などが述べられている。こうした感想から分かるように、絵が把握できることが自らの描画の手がかりになり余裕を持って取組めたことが伺われる。その一方「絵が似てくる」、「絵の印象が強い」、「あまり想像力を使わない」が42%となり、「見た絵に執着、絵を見た後から言葉が追ってきた、はじめから絵があるのでお話を絵に沿って想像してしまう」や「絵本やテレビを見ているときと変わらない、絵に夢中になり登場人物を頭の中で動かせない、絵を描くと皆同じになってしまう」などが見うけられた。こうしてみると、「紙芝居のほうが好き」の1.4%（1名）を加え59.4%が紙芝居を肯定的に捉えた上で、個々の自由な想像性を発揮できなかった面を42%が指摘している。

C Dでは「絵が描きやすい」は7.8%で、主な意見は「しっかりとイメージがつかめる、素話ではぼんやりとするイメージが明確になってくる、皆が同じ世界に入り込んでいけてとてもよい、想像することの手助けをしてくれる」などである。また、話の内容が「分かりやすい」、「絵を見ながら楽しめる」は34.8%で、感想の内容としては「絵を見て想像できる、話しをつかみやすく登場人物に気持ちを感じることが出来た、素話では分からなかった空の色が白だと分かった、話が安定して聞けた、絵があって慌てず聴けた」や「キーワードを絵によって現す事によりさらにイメージを膨らませワクワクする、経験のないものや知らないものを絵で知ることが出来る、次の絵への期待感がある、絵を見て集中できる」などが記述されている。その一方で、「絵が似てくる」、「絵の印象が強い」、「あまり想像力を使わない」が25.6%となり「描かれた絵の通りになる、皆内容が同じになると気付いた」や「絵のイメージしか湧かない、見ている絵に言葉を当てはめていく、言葉との同時進行が少し困難」などが述べられた。ここでは42.6%が紙芝居の肯定的な面を捉え、個々の自由な想像性の発揮できなかった面を25.6%が指摘している。さらにC Dは紙芝居が素話の後で見たことから「両方の違いが分かった」29.5%が現われ、「印象の違いに驚いた、想像の仕方が違う、素話の方がお話を近くに感じた、紙芝居は絵の印象が強く残っているが素話は聞こえてくる話が頭の中で展開するので本当に印象的だった」と主にその印象の違いに驚いている。紙芝居の感想からは、両方のクラスとも紙芝居の分かり易さを大きく取り上げ、安定してじっくり楽しめる上、その絵を手がかりにしてイメージを広げ楽しめたことが見受けられる。しかし、想像力の点においてイメージの固定化は否定できず、この点にはおいては留意する必要がある。(表7)

②素話の感想について

素話後の感想では、先に聞いたC Dは「自分の描きたい絵が描けた」が2.9%で「楽しんで描けた、自分だけの世界を楽しみ自分だけの世界を描いてみるのはとても面白い」と述べている。また、「イメージしやすい」、「想像力が養われる」、「自分で想像する楽しさがある」、「物語の世界に入り込み

やすい」、「人によって違うイメージがもてる」、「話しを集中して聞いた」と43.7%の学生が述べ、感想の内容を「頭の中で映像として話の内容がイメージできた、引き込まれていった、次の展開にどきどきした、いろんなイメージが来て面白い、イメージが頭の中で沢山広がった」や「想像しながら細かく考える、想像性を膨ませ感性を豊かに出来る」、そして、「想像が膨らみ物語が出来上がっていく楽しさがあった、場面が次から次へと頭に浮かんで来て絵が無くてもお話しは楽しむことが出来る、言葉を頭の中でイメージして聞いているのが不思議で楽しかった」や「それぞれ描いた絵に個性があった、意識していた訳ではないのに色々想像していたので驚いた、自分のこれまでの経験がとても重要ですべて想像力になる点を考えなければならぬ」などが見られ、個々の独自の想像の世界を楽しむ自由なイメージをつくり上げながらそうした自分に驚く姿が見受けられる。しかし、「紙芝居より難しく感じた」、「実演が難しそう」12.2%と保育で実践を想定した視点が現われている。こういう点から見ると46.6%が前向きに捉え楽しんでいるが12.2%の学生は不安を見せている。これは、「話し手により感じ方が変わる」や「声の抑揚や身振り手振り、表情が大切」のように10.9%が保育の視点を掘り下げていることから保育者としての意識が育まれているものとして肯定的に捉えてよい。また、「素話は初めて聞いた」学生が0.8%いるように「絵が答え合わせのようになった」8.8%ことや「両方の違いが分かった」18.9%についても、経験的に不慣れな学生が素話本来の楽しみ方を身に付けるまでには、多少の時間をかけることが必要である。

紙芝居の後で素話を聞いたA Bの場合は、「自分の描きたい絵が描けた」は4.4%で「声だけの方がイメージが膨らんで思ったままの絵が描けた、自由で楽しい、自分の世界が広がると思った」と述べている。また、「イメージしやすい」、「想像力が養われる」、「自分で想像する楽しさがある」、「物語りの世界に入り込みやすい」、「人によって違うイメージがもてる」、「話しを集中して聞いた」で47%の学生は「自分の中で次々とそのシーンが浮かびこんなことも出来るんだと驚いた、登場人物や場面を自分の想像力で広げられる、自分

ですべて想像し頭の中で動きがあってとても面白い、最初はもっと退屈なものだと思っていたが話を聞いているとどんどん頭の中にイメージが湧いてきてとても楽しかった、今までに無い感じでも面白かった、紙芝居以上に想像した、すべて自分の想像だったので紙芝居よりも話の中に入った、聞くのに夢中になり引き込まれ具合が全く違う」や「言葉を一生懸命聞くので一つ一つの言葉が印象に残っている、自分だけの町・色が出るので面白い、一人一人違ったイメージで想像できてとても面白い、紙芝居と違ってイメージする場面を大きく思い浮かべることが出来てよかった」などと述べている。また、「紙芝居より心が入りやすい」3.3%では、「感動して泣きそうだった、感情を込めて聞けて胸にぐっときた」と感情移入が深かった意見も見られた。しかし、「印象的だったものしか頭に残らない」や「紙芝居より難しく感じた」と捉え、「話の流れの中で自分が印象的だったものが頭に残るだけだ、最後の場面しか思い浮かばなかった、紙芝居より描くのが難しかった、自分なりに想像しなければいけなかった、話しをよく聞き自分なりのイメージを作り出すことが大切でまた難しい」という5.6%の意見も見逃せない。また、「実演が難しそう」、「言葉の理解と想像力が必要」、「話し手により感じ方が変わる」や「声の抑揚や身振り手振り、表情が大切」とした27.8%では「出来るようになりたいが話を理解し自分の言葉で話せるか、暗記をするので自分に出来るか不安、頭だけで話を理解しようとするので言葉一つ一つが分かっていないと想像できない、表情や声・動作などがとても頭に浮かび感情が伝わってきた、話し手の雰囲気ですトーリーの印象が変わる、違うものを話さないよう正しい表現や言葉で話す、声の変化の他に体全体で表現しなければならない、表情・声の強弱・リズムによって受け取り方が変わる、人をひきつける力を養いたい」と述べていることから、学生なりの保育者の視点が育っていると考える。さらに、A Bでも「素話は初めて聞いた」学生が1.7%おり、そうした学生を含め、この授業の体験で「両方の違いが分かった」26.5%では「全然想像の仕方が違い驚いた、紙芝居は聞いている間絵を見ようとするが素話は聞くことだけだから印象に残りやす

い、最初は先に聞いた紙芝居の絵が頭に残っていたが途中から全く別物になった、紙芝居では言葉はその説明にしか過ぎないから直接目で見た絵を描き素話は話を聞いて感情が現われた場面を描いた」など、主にその印象の違いに驚く意見が目立った。こうした各クラスの感想から、素話の体験不足が明確となったが、いずれのクラスも授業を前向きに捉え、紙芝居の長所もきちんと捉えた上で素話と比較し、保育の視点から教材として捉える姿勢が見受けられる。(表8)そこで、特に、その傾向が目立つ記述を下記のように取り上げる。

＜感想文に見られる保育の視点＞

- ・話の途中で飽きてしまう子が騒いだりしないように子どもの性格をよく見ておく
- ・紙芝居は一つに固定されてしまうが素話は子どもたちと一緒に話を膨らませて楽しめる
- ・紙芝居だと声の強弱でしか表現できないが素話だと身振り手振りで表現できみんなの反応や顔が見られる
- ・紙芝居は絵を見ながら聞くので理解しやすいが素話は言葉を理解しなければならないので子

- もたちに伝わり易い言葉を使わねばならない
- ・素話の効果は子どものイメージを膨らませたり感受性を豊かにする目的がある
- ・想像力を豊かにしたいときは素話、話をイメージ出来ない年齢の子どもでも楽しめるのは紙芝居
- ・紙芝居は絵を見て想像力を膨らませ、素話は聞いた話を絵にして想像力をつける
- ・紙芝居よりも素話の方が想像する力が育ち、子どもの眼を見て話せるためより子どもの興味を引けるが、話を途中で忘れてしまうと一気に冷めてしまう可能性があるのでかなり練習しないと難しい
- ・素話の後に子どもに絵を描いてもらった面白そう
- ・共通の話題作りには紙芝居で、想像力や感性を大切にしたいときは素話と子どもの伸ばしたいところにより使い分ける

上記のような記述から、1年生半ばにおいても、「ねらい」によって活用法を工夫しようとする保育への積極的な姿勢が育っていることが確認でき、学生たちの成長が分かる。

＜表7＞紙芝居の感想から（複数回答）

先に紙芝居を実演（A Bクラス98名）59回答	後で紙芝居を実演（C Dクラス103名）122回答
1 絵が描きやすい（物語と一緒に絵が目には焼きついてしまっていたので、描こうと思った絵はある程度スラスラとスムーズに描ける、絵が頭の中に残るので細かいところまで覚えている、絵が見えるからきれいな部分が印象に残りやすい、印象に残った場面は紙芝居のほうが記憶に残りやすい場面を思い出せる）4	1 絵が描きやすい（しっかりとイメージが掴める、イメージしやすい、素話ではぼんやりとするイメージがより明確になってくる、皆が同じ世界に入り込んでいけてとてもよい、想像することの手助けをしてくれる、内容がイメージし易い、絵があるのと無いのとでは大きく印象が変わるということを知った）9
2 描いた絵画が似てくる（絵があるから多少絵が似てくる、最初にイメージが絵として提示されているので紙芝居っぽい町を想像した、絵を見るとその絵の印象が強くなり絵に忠実になってしまふ、見た絵に執着してしまふ、自分の絵が紙芝居の絵に近いものになってしまう、絵をみて話を聴くから紙芝居の絵に似せようと絵を描いてしまふ）9	2 絵が似てくる（絵を描く時似た絵になってしまう、絵に見入ってしまう、紙芝居の場面の中から選ぶとする、皆一緒に同じ絵を見たので絵が描きにくい、描かれた絵のとおりになる、皆内容が一緒になると気付いた、皆同じイメージになる）7
3 絵の印象が強い（見ていた絵が印象に残り絵を描くときも頭に浮かぶ、絵そのものを見て後から言葉が追ってきて絵の印象が強かった、始めから絵が描いてあるのでお話をそれに沿って想像してしまふ、絵を描くとき話を思い出すより絵を思い出した、絵で印象に残ったものを描いた）6	3 絵の印象が強い（絵のイメージしか湧かない、話より絵を見ている、イメージが留まってしまふ、言葉との同時進行が少し困難、イメージが固定される、自分で想像することが出来なくなった、見ている絵に言葉を当てはめる）9
4 あまり想像力を使わない（絵を見て話を聞いてしまふためあまり想像力を使わなかった、絵本やテレビをみているときと変わらない、絵を読み話を聞くので所々しか印象に残らなかった、話は分かりやすいが想像の世界がなくなってしまうが、絵に集中してしまふあまりその登場人物を頭	4 あまり想像力を使わない（絵を見て話を聞いてしまふ、あまり想像力はなく気持ちの面を考えると感じた、イメージが固定されるので想像が膨らまない、分かり易いが広がらない、このシーンはこんな表し方もあると思った、分かり易いが想像の世界がなくなってしまうが）16
	5 分かりやすい（話が理解しやすかった、絵を見て想像できる、スムーズに話が理解できる、教訓のようなものが分か

の中で動かすことは出来無い、絵を見ながら聞くので想像があまり出来ないがただどうなっていくのかという気持ちで聴いていた、絵に夢中になって自分でイメージして話を聞くことは少なかった、絵を見てしまっているから絵を描くとき皆同じになってしまう) 13

5 分かりやすい (紙芝居の方が分かりやすい、想像しやすい、絵や色があって聞きやすい、絵があることで作者の意図が伝わりやすい、絵を見て自分のイメージを重ねた、決められた絵があるからそこから想像を広げていく、その絵を元にイメージが広がっていく、人の表情や雰囲気表現する手助けになる) 9

6 絵を見ながら楽しめる (目で見て耳で聞くことで内容が把握できた、絵があって見やすかった、絵を見ているから場面が分かり易い、町の様子が分かる、頭にその絵の色や形などが浮かぶ、話の内容が分かりやすかった、誰にとっても分かりやすい、絵から話を読み取れる、絵に注目し絵なのにその人の気持ちが伝わってくる、ページをめくるときに次への期待を持ってみる事が出来る、絵が描かれているので見ながらその絵を動かしたり変わったりする感じだった、絵を見て楽しめた、絵を見て想像できすぎくきれいな色使いだっ、色鮮やかな色がついているので話が明るい感じがした、見た絵がとても印象的で鮮やかな色の絵などにとっても惹かれた、絵の中に入り込んでお話を聴いた) 20

7 客観的に見ていた感じだった 1

8 紙芝居の方が好き 1

りやすい、物語が頭にすっと入ってくる、話をつかみやすく登場人物に気持ちを感じられる、素話では分からなかった空の色が白だと分かった、話が安定して聞けてとても分かり易い、想像が膨らむ、素話よりストーリーが理解できる、言葉と絵を一致させそこから自分の世界を広げる、絵があって慌てず聞くことが出来た、言葉と共に絵が展開され人やその時の人々の気持ちを鮮明に見られた) 25

6 絵を見ながら楽しめる (絵を楽しみながら話が聞ける、キーワードを絵で表すことによりさらにイメージが膨らみわくわくする、絵を見て想像が膨らむ、経験の無いものや知らないものを絵で知ることが出来る、次の絵への期待感がある、何が出てくるかという面白さがある、絵を見て集中できる、自分の想像した絵が無いから真っ直ぐ話に入れた、絵に釘付けだった、子どもが集中し易い、絵の奥まで見ようとする、紙芝居は絵本よりも絵が少なく想像力を効かせる) 15

7 二つの違いが分かった (よかった、印象に残るところが違った、絵があるのと言葉だけでは全然想像の仕方が違い驚いた、印象の違いに驚いた、印象深いシーンが異なる、見方が全然変わる、紙芝居は聞いている間絵を見ようとするが素話は聞くことだけだから印象に残りやすい、素話の方がお話を近くに感じた、自分の中で湧くイメージが違った、こんなにも違うとは思っていなかった、紙芝居は絵の印象が強く残っているが素話は聞こえてくる話が頭の中で展開し、本当に印象的だった部分が頭に残った、描いた絵が違った、話の伝わり方が違った、イメージが全く違うものになった、違う作品のように感じた、同じ話を聴いたはずなのに違う感じがして面白かった、重点は同じだった) 38

8 言葉を覚えなくてもいいので素話より少し長かった 1

9 読み方が大切 (ページをめくる速さやタイミングがとても重要、声などを変えて読まなければならない) 2

<表 8>素話の感想から

後で素話を実演 (A Bクラス) 168回答	先に素話を実演 (C Dクラス) 220回答
1 自分の描きたい絵が描けた (物語りからイメージを膨らませ描きたい絵が描けた、声だけの方がイメージが膨らみそのままに描けた、周りの立地も話の中にあったから描きやすかった、絵が無いので自分なりにイメージ出来た、自由で楽しい、風景や表現のイメージが広げやすかった、自分の世界が広がる) 8	1 自分の描きたい絵が描けた (絵が楽しんで描けた、いろんな想像により絵が描けた、自分だけの世界を楽しみ自分だけの世界を描いてみるのはとても面白い、それぞれ自分の思った通りの話の世界が作られることが分った) 4
2 イメージしやすい (話の場面をイメージできるところがよい、イメージが浮かびやすく自由な発想が出来る、色々なイメージで沢山のものを連想して描けた、自分の中で次々とそのシーンが思い浮かびこんなことも出来るんだと驚いた、聞くだけなので色々イメージができ自分もその物語の中に入ってしまった) 7	2 イメージしやすい (自由に出来る、素話では自分のイメージがたくさん広がった、いろんなイメージが出来て面白い、頭の中で映像として話の内容がイメージできた) 5
3 想像力が養われる (沢山のことを想像する、想像力・表現力が身につく、個性が出る、イメージする力が養われる、登場人物や場面を自分の想像力で広げられる) 9	3 想像力が養われる (場面毎の絵を自分で考える、想像力を高める、自由に考えることが出来る、表現力や想像力が発達、頭を使う、イメージを膨らますのでとてもよい、想像力を豊かにする、想像しながら細かく考えた、想像性を膨らませ感性を豊かに出来る、感情が豊か、紙芝居よりも想像力を伸ばすためにとても有効) 22
4 自分で想像していく楽しみがある (絵が無いので想像する楽しみがある、自分ですべて想像し頭の中で動きがあって	4 自分で想像する楽しみがある (自分のイメージをつくりあげて話を聞ける、好きなようにイメージできてすごく楽しかった、想像が膨らみ物語が出来上がっていく楽しさがあった、話を聞くだけでどんどん絵が浮かんできた、色々

- とても面白い、最初ももっと退屈なものだと思っていたが話を聞いているとどんどん頭の中にイメージが湧いてきてとても楽しかった、今までに無い感じでとても面白かった、単語により自分の想像した町を描き楽しかった) 8
- 5 物語の世界に入り込みやすい (魅いられて聞き入った、自分たちに語りかけているように感じた、紙芝居以上に想像した、頭の中でどの登場人物も動かせたり町のイメージなど絵に囚われることも無い、素話の方がより集中して話を聴こうと思った、すべて自分の想像だったので紙芝居よりも話の中に入った、聞くのに夢中になり引き込まれ具合が全く違う、話し手の言葉に聞き入ることが出来た) 10
- 6 人によって違うイメージがもてる (全部自分で色々想像しながら話を聞いた、想像しながら進んでいくのを楽しめた、言葉の一つ一つが耳に残った、話を聞いて想像し頭の中に絵を思い浮かべた、頭の中で場面を思い描いていた、言葉を一生懸命聞くので一つ一つの言葉が印象に残っている、心の中でイメージを膨らませてお話を聴いた、自分のイメージで話が展開され楽しい、同じイメージを想像している人はいない、自分だけの町・色が出るので面白い、人と違う世界を創造できる、一人一人違うのですごく楽しい、自分の中の創造の世界を元に話を聞くので同じ話でも周りの人と違う感想をもつ、一つの物語を一人一人違ったイメージで想像できてとても面白い、同じ話でもやり方が違うだけでこんなにもイメージ違った、驚いた、個性が出る、人と違った絵が描ける、細かなところまで想像できて楽しかったが絵にしてみると平面な絵になってしまった、一人一人全然違う世界が広がる、イメージが広がった、紙芝居と違ってイメージする場面を大きく思い浮かべることが出来てよかった、頭の中で創造を膨らませていくので紙芝居とは違う楽しみがあった、様々な場面が想像できどれも印象印象的な場面になった) 30
- 7 両方の違いが分かった (よかった、こんなにもイメージが違うことが分かった、印象に残るところが違った、全然想像の仕方が違い驚いた、印象の違いに驚いた、印象深いシーンが異なる、見方が全然変わる、紙芝居は聞いている間絵を見ようとするが素話は聞くことだけだから印象に残りやすい、素話の方がお話を近くに感じた、自分に湧くイメージが両方も違った、こんなにも違うとは思っていなかった、紙芝居は絵の印象が強く残り素話は話が頭の中で展開するので本当に印象的だった部分が頭に残った、全然違った印象を受けた、描いた絵が違った、話の伝わり方が違った、イメージが全く違うものになった、違う作品のように感じた、同じ話を聴いたはずが違う感じがして面白かった、重点は同じだった、最初は先に聞いた紙芝居の絵が頭に残っていたが途中から全く別物になった、読み方にもとても意味がある、話の伝わり方が違った、言葉はその説明にしか過ぎないから直接眼で見た絵を描き素話は話を聞いて感情が現われた場面を描いた) 42
- 8 紙芝居より難しく感じた(紙芝居より描くのが難しかった、想像からはじめるから最初は難しかったけど出来上がってきたら楽しかった、自分なりに想像しなければいけなかった、話しての表現から自分の想像したもので話を聞き取らねばならない、話をよく聞き自分なりのイメージを作り出

- な場面を沢山想像できる、自分だけの世界になって楽しさが湧く、話を聞きながら想像するのは楽しかった、どこまでも限りなく考えることが出来る、場面が次から次へと頭に浮かんで来て絵が無くてもお話しが楽しめた、言葉を頭の中でイメージして聞いているのが不思議で楽しかった、いろんなことを想像できて楽しかった、想像力をかきたてる、自分のイメージで物語の絵が作れるので聞き終わった感動がとても大きかった) 22
- 5 物語の世界に入り込みやすい (自分で自由に想像出来る、絵が無くても楽しめた、自然と話の中に吸い込まれ話が終わっても印象に残りすごい、絵が無くても自然に入り込めて場面が想像できた、自分のイメージを確実に想像できた、どんな気持ちだったのかすごく考えた、話に吸い込まれていくのがよく分かった、ビデオを見ているように感じた、映画のようになった、想像力が膨らんだ、お話の世界が広がる、ワクワクした、イメージに囚われず自由に想像できる、内容が濃いように感じた) 19
- 6 人によって違うイメージがもてる (一人一人が違うイメージで想像できる、それぞれの絵に個性があった、実際に描く人と人によって様々で面白く感じた、絵を描いた後互いに見せ合った時こんなに違うと分かり面白かった、意識していた訳ではないのに色々想像していたので驚いた、自由にイメージ出来る、自分の今までの経験がとても重要で、全て想像になる点に気付いた、個性が出る) 16
- 7 両方の違いが分かった (絵の感じが全然違って、全然違って面白く、同じ話なのに違う印象を持てた、話しながら子どもの様子を常に見られる、雰囲気違って驚いた、イメージの膨らみ方が全然違い面白かった、捉え方が大違い、印象に残るシーンが違った、両方を比べることが出来て楽しかった、想像した絵が全然違った、絵が比較できた、比較で面白い点が増えた、素話は想像しながらで紙芝居は思い出して絵を描いていく、紙芝居は絵からイメージを膨らませ素話は自分の頭の中で物語の風景を膨らませられる、受ける印象が全く違った、別世界だった、絵を描いてその違いに驚いた、違う話に聞こえて新鮮だった、受け止め方が大きく違った、捉え方の違いを感じた、紙芝居よりストーリーが詳しい、それぞれの特徴をつかみ上手に話せるようになりたい、同じ話しても原点が全然違う、素話は和風を想像したが紙芝居は外国の絵だった、素話で特に印象に残ったシーンが紙芝居では言葉だけで語られていて自分が細かいところまでイメージしていたことに気付いた、最初は違いや使い分け方も分からなかったが絵を描いて自分の中でイメージをつくっていたことに気がついたが先に紙芝居を見ていたら話しのイメージが決まっていた) 44
- 8 紙芝居より難しく感じた(理解が紙芝居より難しく感じた、オチが分からず中途半端な感じがした、イメージを作り出すのが大変だった、イメージするのが難しかった、イメージが広がり楽しかった、言葉の使い方によって簡単に紙芝居よりも楽しく聞けた、大変だったが好きなようにイメージできる、すごく想像した、想像が膨らんでいる途中で次へと物語が進んで落ち着いて聞けなかった) 8
- 9 話し手により感じ方が変わる (絵がない分話し手の手の動

- す事が大切でまた難しい) 5
- 9 話し手により感じ方が変わる (表情や声、動作などがとても頭に浮かび感情が伝わってきた、話し手の強く話すところが印象に残る、話し方の雰囲気やストーリーの印象が変わる、絵がない分手の動きや表情、話し方などで印象が変わる、言葉とアクションを見て自分の中で想像しながら聞いていく事がすごく楽しかった、紙芝居より印象が高まる、聞き手の受け取り方による、上手く話さないといけない、違うものをイメージしないよう正しい表現や言葉で話す、) 11
- 10 声の抑揚や身振り手振り、表情が大切 (話し手の表現力はとても大切だ、声の変化の他に体全体で表現しなければならない、話し手の手の動き顔、声などが重要、表情・声の強弱・リズムによって受け取り方が変わる、内容は同じでも少し手を加えることでもっと引き込まれていく、人をひきつける力を養いたい、体を使って話をしたほうが話を聞く側の創造力によい) 6
- 11 実演が難しそう (難しそう、テクニックが要る、できるようになりたいが話を理解し自分の言葉で話せるか、大変そう、暗記をするので自分に出来るか不安、) 5
- 12 印象的だったものしか頭に残るらない (話の流れの中で自分が印象的だったものが頭に残るだけで、最後の場面しか思い浮かばなかった、最後の場面が頭の中に残っているのでその絵を描いた) 3
- 13 言葉の理解と想像力が必要 (最初から想像していかなければならない、頭だけで話を理解しようとするので言葉一つ一つが分かっていないと想像できない、想像力が必要だ、一つ一つの言葉をしっかり頭に残して絵の想像をした) 5
- 14 紙芝居より心が入りやすい (頭の中で場面を展開し自分の感じたように話を理解していく、感動して泣きそうだった、人の感情が伝わってくる感じがした、感情を込めて聞けて感情が胸にぐっと来た、もっと聴きたいと思った) 6
- 15 素話の方が好き (絵を見るのではなく自分の想像力でお話が頭の中に浮かぶから楽しかった) 2
- 16 素話は始めて聞いた 3
- きや表情、話し方などで印象が変わる、感じ方が違った、言葉の力はすごいと感じた、話し方や言い方1つで世界が変わるのはすごい、素話は表情をとでも見ることが出来た) 6
- 10 声の抑揚や身振り手振り、表情が大切 (話だけなので話し方や身振りが重要、どちらも読み手によってイメージの膨らみ方が違う、声のトーンや話すスピード・表情や手振りでいかに物語の世界を伝えられるか、言葉の勢いなどで全く違うものになる、見ていて引き込まれ興味が湧いた、上手くなりたいたい、話し方が重要、話し方でよりイメージが豊かになる、是非技術を身につけたい、練習が必要、どれだけ言葉で想像させられるか、場面をイメージさせながら話すことが大切、表情・言葉の強弱はとても大切) 18
- 11 実演が難しそう (やってみたい、手・表情・声を使つての表現が大変、自分がやることに不安、子どもへの印象や伝えるための表現力、感情を込めないと伝わらなくてとても大変そう、何もつかわず伝える難しさを感じた、保育者としては大変そう、子どもをひきつけて集中してくれるか、話を記憶しなければならない、やってみたい、頑張ろうと思う、あんなに沢山の分を覚えすごいと思った) 20
- 12 話を集中して聞いた (集中して聞こうという環境が出来やすい、引き込まれていった、次は何かと期待させることが出来る、次の展開にどきどきした、ストーリーが頭に残る、心の中に残された映像が何時までも残っている気がする、最初に持ったイメージ大きさが絵を描いてよく分かった) 13
- 13 絵の答え合わせのようになった (素話をしてから紙芝居を見たので絵が答え合わせのようになった、両方とも自分の考えていた物とはほぼ一緒だった、イメージが似ていてびっくりした、絵に描いたら紙芝居とはほぼ一緒のイメージでびっくりした、素話で印象に残ったシーンでも紙芝居では印象が薄かった、後に書いた町の風景が違いとてもショックで自分の想像力は駄目かと思った) 20
- 14 どちらも絵にするのは難しかった 1
- 15 素話は初めて聞いた (経験してその大切さに気付いた、初めて聞いて感動した) 2
- 16 素話の方が好き (素話の方が楽しかった) 3

4. まとめと今後の課題

「幼稚園教育要領解説」の『言葉の獲得に関する領域「言葉」』によると「幼児は、絵本や物語などで見たり、聞いたりした内容を自分の経験と結びつけながら、想像したり、表現したりすることを楽しむ」や「現実には自分の生活している世界しか知らない幼児にとって、様々なことを想像する楽しみと出合うことになる」と示されている。また、『感性と表現に関する領域「表現」』でも、「豊かな感性や表現する力を養うことで想像性を豊かにする」とあるように、子どもは毎日の生活の中で経験したことを元に具体的なイメージを蓄

積していき、子ども一人一人の心の中に蓄積されたイメージが組み合わせられて色々なものを思い浮かべる想像力となることから、子どもたちの豊かな感性や自分なりの表現を楽しめるイメージの育ちの大切さが述べられている。子ども一人一人の家庭環境や生活経験がそれぞれ異なるように、学生もまた一人一人が過ごしてきた生活経験、思いや気持ちなど内面も含めてそれぞれ独自の存在として事物への関わり方や見方、環境からの刺激の受けとめ方が異なっている。こうした点は、今回の学生の感想にも確認することができる。学生がこうした教材に触れることから自己の経験を鮮明

に自覚し、さらに物事をじっくり見たり考えたりしようとするなど自分の世界に浸り自分自身にも気づき新たな発見につながることも期待したい。

近年においては子どものみならず、保育者を目指す学生の環境は、一方的に与えられるスピーディーなメカニズムの世界になりがちでじっくり想像をめぐらす余裕も持ちにくい。また、「面倒」を嫌い合理的で手軽なことを求める風潮はさらに強化されている。子どもにとって絵本は、描かれている絵や写真から刺激を与え、何度でも子どもの好奇心のままにじっくりゆったり感じられたり味あわせてあげられる世界がある。紙芝居には、絵本より演じることが求められることから感情表現による感覚的な点も強化される。「素話」には、絵本や紙芝居では伝えきれない直接的な人肌交流で育つ深い人間味を感じあうことが出来、これまでの様々な体験からより感覚的で実際的な自分独自の世界を作り上げる楽しみがある。学生が自らのこうした経験を通して、それぞれのもつ教育効果をしっかり把握し、保育のねらいに即した効果的な活用法の必要性を認識できるよう配慮した。さらに、どんな便利な時代になっても子育てに手を抜いてはいけないことや何より「面倒」と言う理由で省いてはいけないことはしっかりと認識した上で、保育者としての自覚を持って研究に取り組む姿勢を育てたい。今回、こうした個々の学生の独自

性やその人らしさは、素話グループにより強く現われ、表現する力や想像性の豊かさも引き出されていたことから、今後は保育者養成の中に学生の「素話」に取り組む経験を強化することで、さらに子どもたちの「お話しの世界」を広げ豊かな経験につなげられるよう保育者を目指す学生の保育のねらいに即したの技術の向上を考慮し、保育者としての能力を高められるような指導に努力したい。

引用・参考文献

- 幼稚園教育要領解説 文部省 フレーベル館 平成11年 p117,131
- 現代保育用語辞典 岡田正章他 1997フレーベル館
- 保育用語辞典 森上史朗他 ミネルヴァ書房2004年
- お話しとその魅力 相場和子他 萌文書林1994年
- 先行研究 日本保育学会大第54回大会研究論文集 「イメージと表現」 P 694~ 長根利紀代
- 文部時報 中央教育審議会中間報告 4月臨時増刊号 文部省 平成10年 P 105
- 文部時報 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について 8月臨時増刊号 文部省 平成8年

Image and Expression in the Story Telling and Kamishibai

— Through the Drawing of the Students from a Story

“Why is the Sky Color Blue?” —

Nagane, Rikiyo*

近年では、子どものみならず、学生たちも合理的でスピーディーさを求める時代背景の中で、現実味の無いバーチャルの世界に浸っている。しかし、こうした時代の保育においては、むしろ「面倒」な人の手のかかる関わりこそが必要である。その中でも、子どもの発達には豊かな物語の世界を広げることは重要であり、保育のねらいに見合った教材の選択が問われる。教材には、最も身近で豊富に整えられた絵本に対して、絵本より演じる技術や準備を必要とする紙芝居は、感情豊かに表現し物語を感覚的にも広げられる。さらに、取り上げられることが減少傾向にある「素話」には、絵本や紙芝居では伝えきれない直接的な人と人との人間味を感じ合いつつ、個々の体験から自分独自の世界を作り上げる楽しみがある。学生は、授業により1つの教材を紙芝居と素話として体験し、そこから両者を比較することでその教育効果を実感した。そこで、自らの体験を通してそれぞれのもつ教材の特徴を把握した上で、保育のねらいに即した効果的な活用法と技術向上の必要性を実感し積極的な学習態度を引き出せた。本研究から把握した学生の現状を考慮し、学生の意欲や求める能力が身に付けられるようにさらなる授業の充実に努めたい。

キーワード：紙芝居，素話，経験とイメージ，想像力，保育者の能力